

腎性貧血について



◆そもそも貧血とは？

貧血は、血液中の赤血球が基準値よりも減少した状態です。

◆腎臓が悪くなるとなぜ貧血になりやすいのですか？

腎臓は様々なホルモンを分泌しています。その1つに赤血球を作る働きを促進するエリスロポエチンというホルモンがあります。

腎臓が悪くなることにより、エリスロポエチンの分泌が悪くなり赤血球を作る能力が低下する事により『貧血』になります。このようにして起こる貧血を『腎性貧血』と言います。

◆診断は？

血液検査でヘモグロビン値（Hb値）を測定して基準値は10～12g/dlとなっております。しかし、鉄分が不足する「鉄欠乏性貧血」もあるためヘモグロビン値がすべてというわけではありません。

◆どんな治療をしますか？

1. 薬物療法

腎性貧血の治療には、エリスロポエチンの分泌不足を補うために赤血球造血因子製剤（ESA）の注射を使用します。また最近ではHIF-PH阻害薬という経口剤も使用できるようになりました。鉄欠乏性貧血には注射・経口剤を使用します。

2. 食事療法

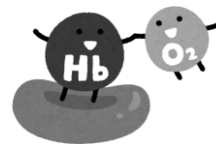
貧血にはレバーなどの肉類、魚類、大豆類の鉄分やたんぱく質の多い食べ物の摂取が効果的です。しかし、たんぱく質の多い食べ物にはリンやカリウムが多く含まれており調理には工夫する必要があります。また、1度に多く摂取しても体内に溜め込んでおけるものではない為、食べ過ぎに注意し、毎日適量を接種する必要があります。具体的な調理方法などは、栄養士さんに相談してください。



最後になりますが、貧血の治療は臓器保護につながる事をお話いたします。

血液の中には赤血球という細胞が含まれており、赤血球の働きは酸素を各組織に運搬する事です。濃度が低いと必要な酸素が不足する状態になります。貧血とはその赤血球の濃度【ヘモグロビンHb値】が低下する事です。

しかし、軽度の貧血であれば、心拍出量（心臓から出る血液の量）の増加によって代償が可能なのですが、症状が進行すると心筋に負担がかかる事が知られています。また、最近では脳の機能や透析導入前の保存期の腎機能に影響を与えるという報告もあります。では、目標の値はいくらなのでしょうか？Hb濃度は10g/dl～12g/dlが推奨値となっておりますが、10g/dlを切らないようにすることが大切です。



『だるい』『息切れ』『疲れやすい』は、腎臓病が原因となって起きる「腎性貧血」の症状かもしれません。そのままにしておくと、腎臓病を進行させる可能性があります。気になる症状がある方は、是非ご相談下さい。

ふれあい 曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2021年5月号
(第132号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



発熱外来はこちら
のQRコードから
ご参照ください。

